

「研修会等名称」

大学コンソーシアム京都第 14 回 FD フォーラム

場所：龍谷大学

期間：2009 年 2 月 28 日～3 月 1 日

1. 研修の内容

このフォーラムには初回以降皆勤です。今回もおかげさまで参加することができました。

今回もほぼ例年と同様、1 日目は基調講演、シンポジウム、情報交換会、2 日目は分科会とミニ・シンポジウムの同時進行でした。

昨年から 2 日目午前は報告、午後に質疑応答というパターンをとるようになりましたが、今回もその方法がとられました。

例年同様、1,000 名を越える多くの参加者がありましたが、昨年より若干少なかったように思われます。報告者はほぼ一新したように思います。

分科会は、1 単位 45 時間の学習の実質化の光と陰、学生とともに進める FD、未来を担うプレ FD の創造、教養・文化教育としての外国語教育、大学での学びの質を高めるために、主体的な「学び」を目指した学習支援、高等教育におけるオルタナティブとしての短期大学、初年次教育の展望と課題でした。

ミニ・シンポジウムは、地域連携型教育から何が学べるか、教職協働、キャリア教育の実践と今後のあり方、大学教育における e ラーニングシステムの可能性でした。

ミニ・シンポジウムと分科会は同時進行でした。

いずれも参加したいテーマでしたが、時間の重複もあり、一つだけの参加が許されました。葛谷先生（経済学部教学主任）とは別の分科会、シンポジウムに参加いたしました。

2. 研修の成果

分科会「初年次教育の展望と課題」に参加しました。他大学の状況を知りうる
ことができたのが最大の成果でした。

関西国際大学、比治山短期大学の FD に関する報告は別の機会に聴講する機会が
何度ありましたが、同志社大学商学部の GP の取組みなどを詳細に知ることがで
きました。

3. 授業への研修成果の反映状況

本学経済学部は FD や初年次教育において先駆的な役割を果たしてきたと考えて
おります。今回報告のあった大学の取組みを導入するかは意見が分かれるでしょう
が、少なくとも情報提供などはできそうです。

他大学の事例を調査、研究することは、不断の努力としてなされなければならな
いと考えております。

学 部 長	F D 委員長	F D 委員会	企画・広報課長	係